

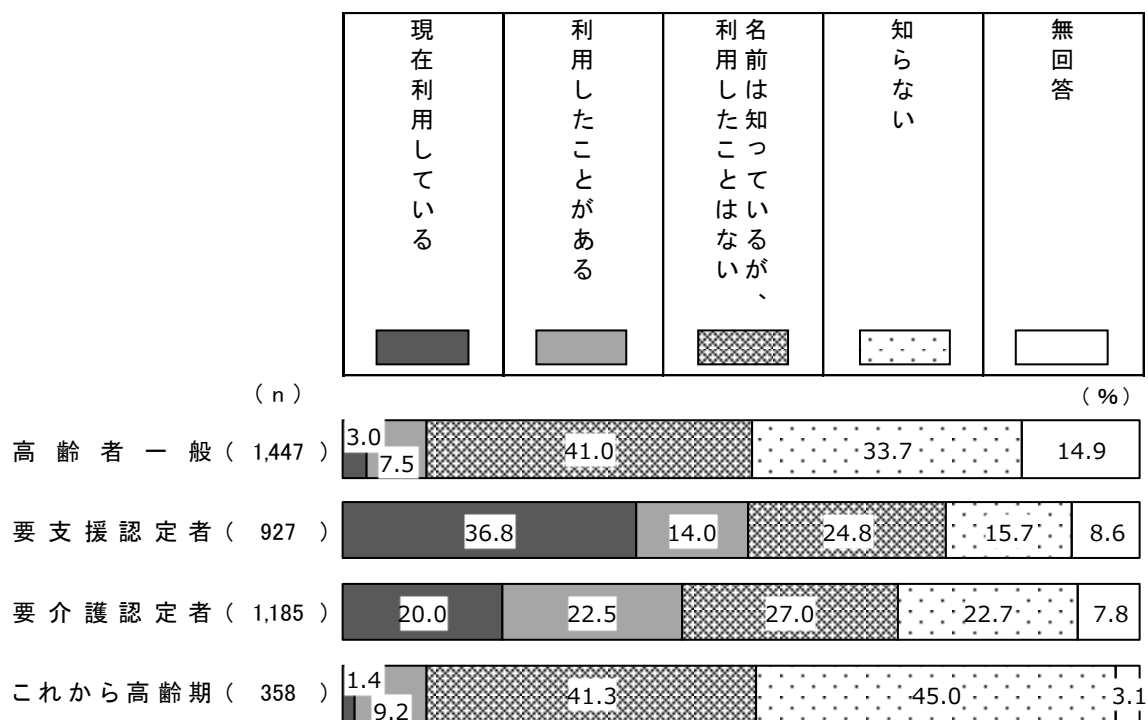
8 地域包括支援センター

(1) 地域包括支援センターの認知度

○地域包括支援センターを「知らない」と回答した人は、高齢者一般で33.7%、要支援認定者で15.7%、要介護認定者で22.7%、これから高齢期で45.0%となっている。

○いずれの調査においても、「現在利用している」「利用したことがある」「名前は知っていたが、利用したことはない」を合わせた“知っている”が、「知らない」を上回っている。

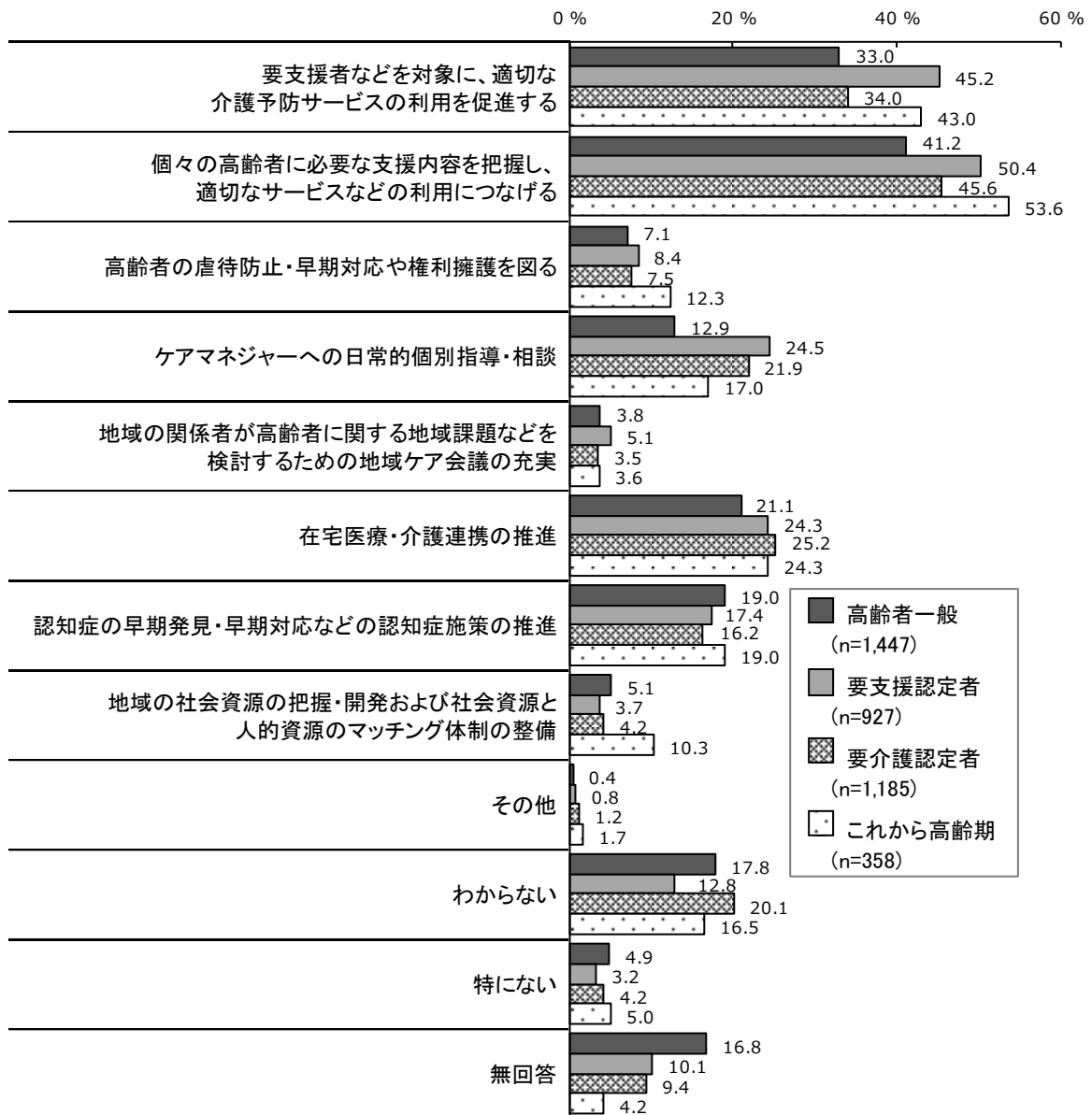
■地域包括支援センターの認知度



(2) 地域包括支援センターに期待する役割

○いずれの調査においても、「個々の高齢者に必要な支援内容を把握し、適切なサービスなどの利用につなげる」が最も高く、「要支援者などを対象に、適切な介護予防サービスの利用を促進する」が続いている。

■地域包括支援センターに期待する役割（○は3つまで）

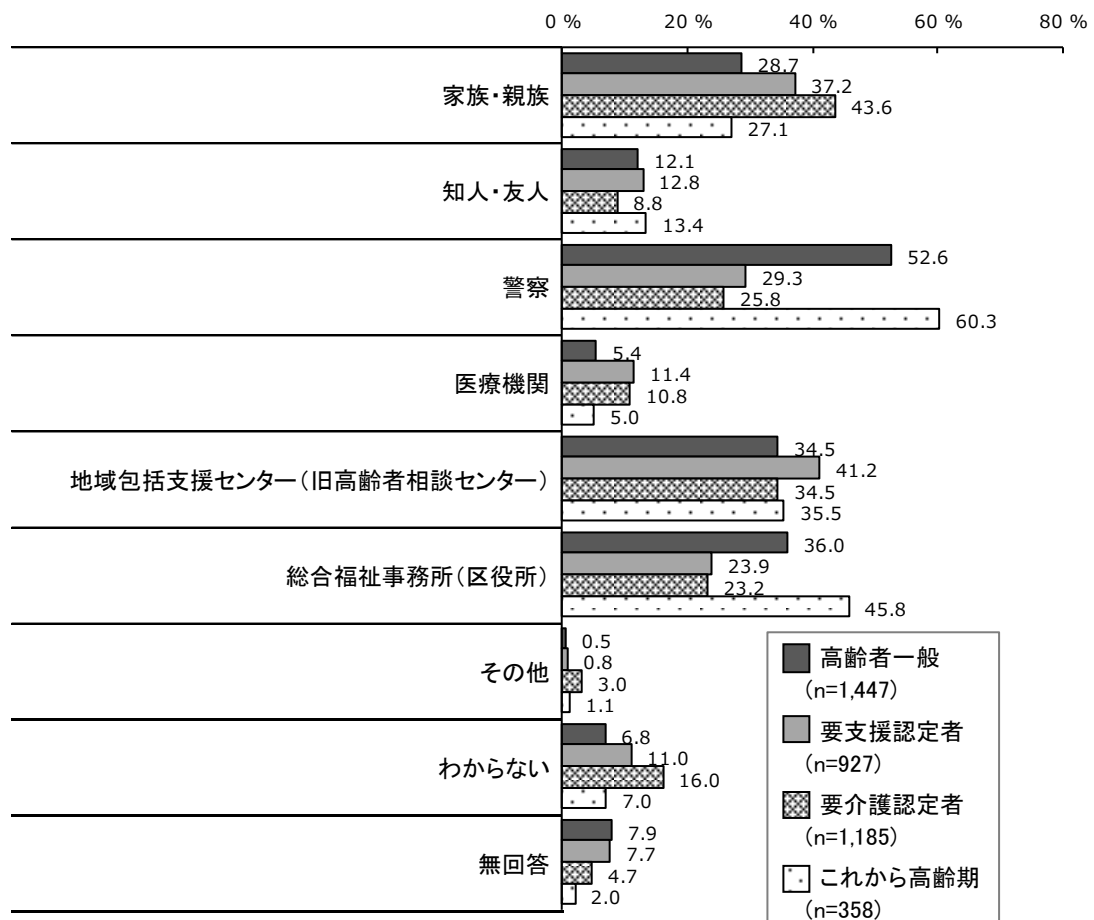


(3) 高齢者の虐待

① 高齢者虐待の相談先

- 高齢者一般、これから高齢期では、「警察」が最も高く（それぞれ52.6%、60.3%）、次いで「総合福祉事務所（区役所）」（それぞれ36.0%、45.8%）、「地域包括支援センター（旧高齢者相談センター）」（それぞれ34.5%、35.5%）が高くなっている。
- 要支援認定者では、「地域包括支援センター（旧高齢者相談センター）」が41.2%で最も高く、「家族・親族」（37.2%）と続いている。
- 要介護認定者では、「家族・親族」が43.6%で最も高く、「地域包括支援センター（旧高齢者相談センター）」（34.5%）と続いている。

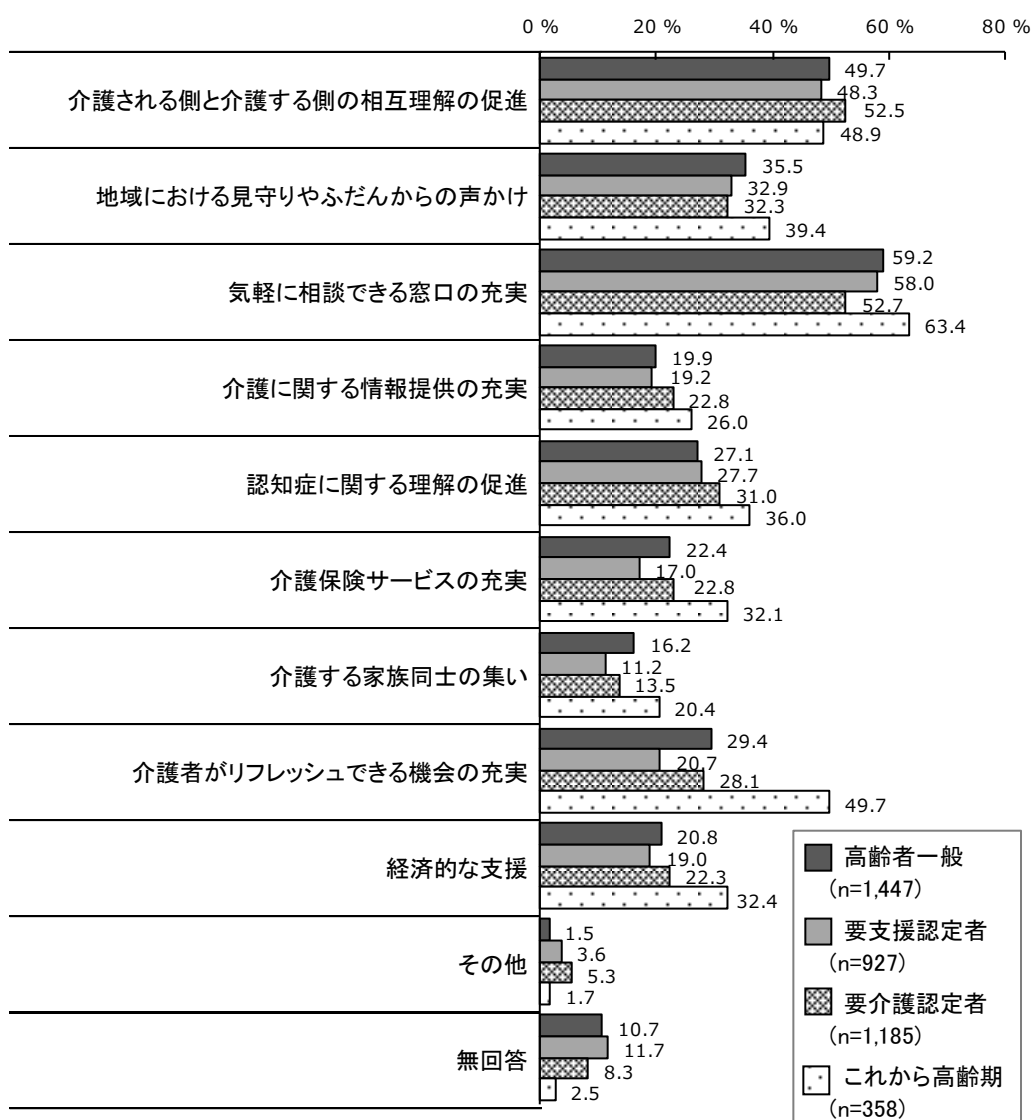
■高齢者虐待の相談先（複数回答）



② 高齢者虐待を防止するために必要なこと

- 高齢者一般では、「気軽に相談できる窓口の充実」が59.2%で最も高く、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(49.7%)、「地域における見守りやふだんからの声かけ」(35.5%)と続いている。
- 要支援認定者では、「気軽に相談できる窓口の充実」が58.0%で最も高く、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(48.3%)、「地域における見守りやふだんからの声かけ」(32.9%)、「認知症に関する理解の促進」(27.7%)と続いている。
- 要介護認定者では、「気軽に相談できる窓口の充実」が52.7%で最も高く、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(52.5%)と続いている。
- これから高齢期では、「気軽に相談できる窓口の充実」が63.4%で最も高く、「介護者がリフレッシュできる機会の充実」(49.7%)、「介護される側と介護する側の相互理解の促進」(48.9%)と続いている。

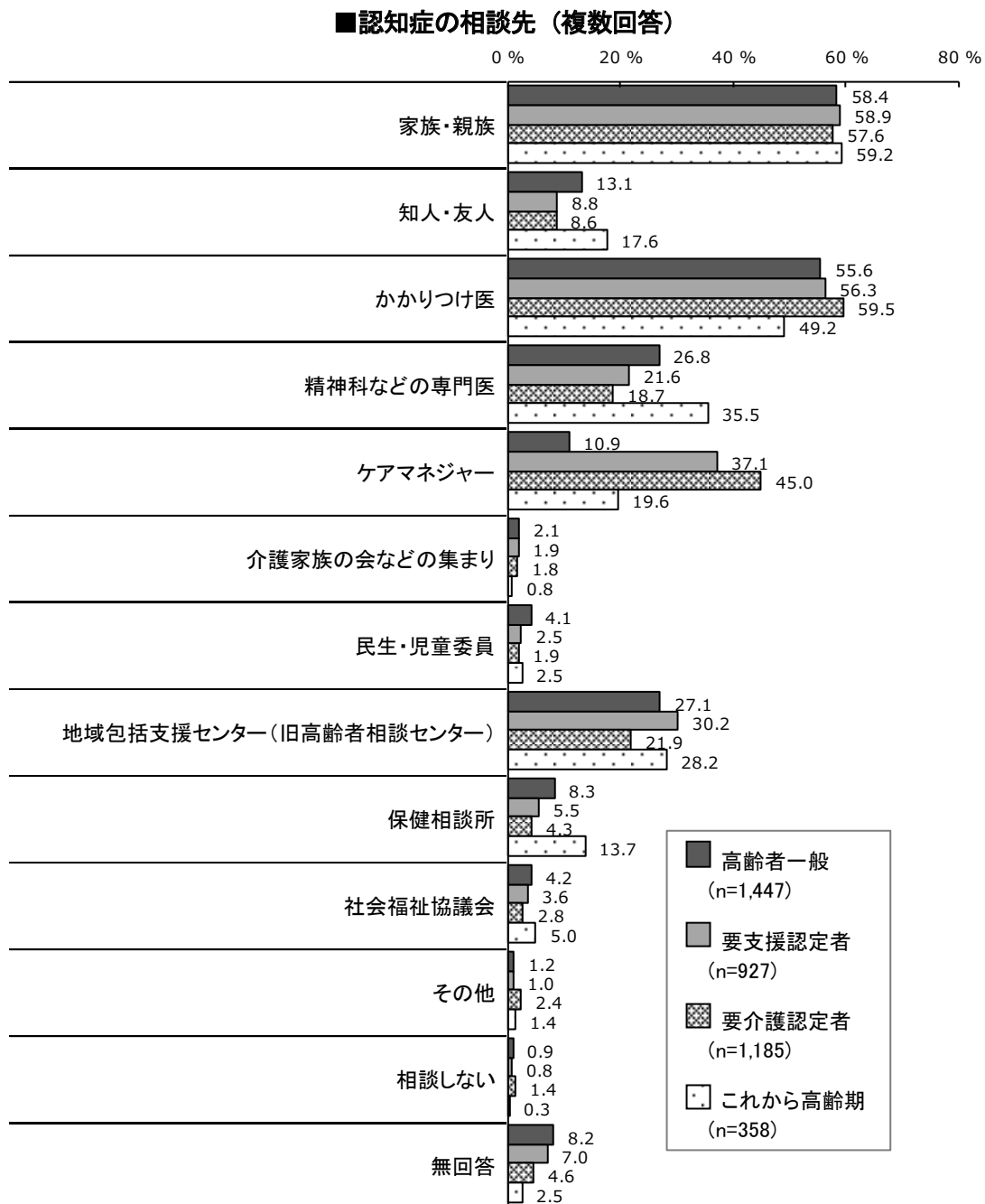
■高齢者虐待を防止するために必要なこと（複数回答）



(4) 認知症

① 認知症の相談先

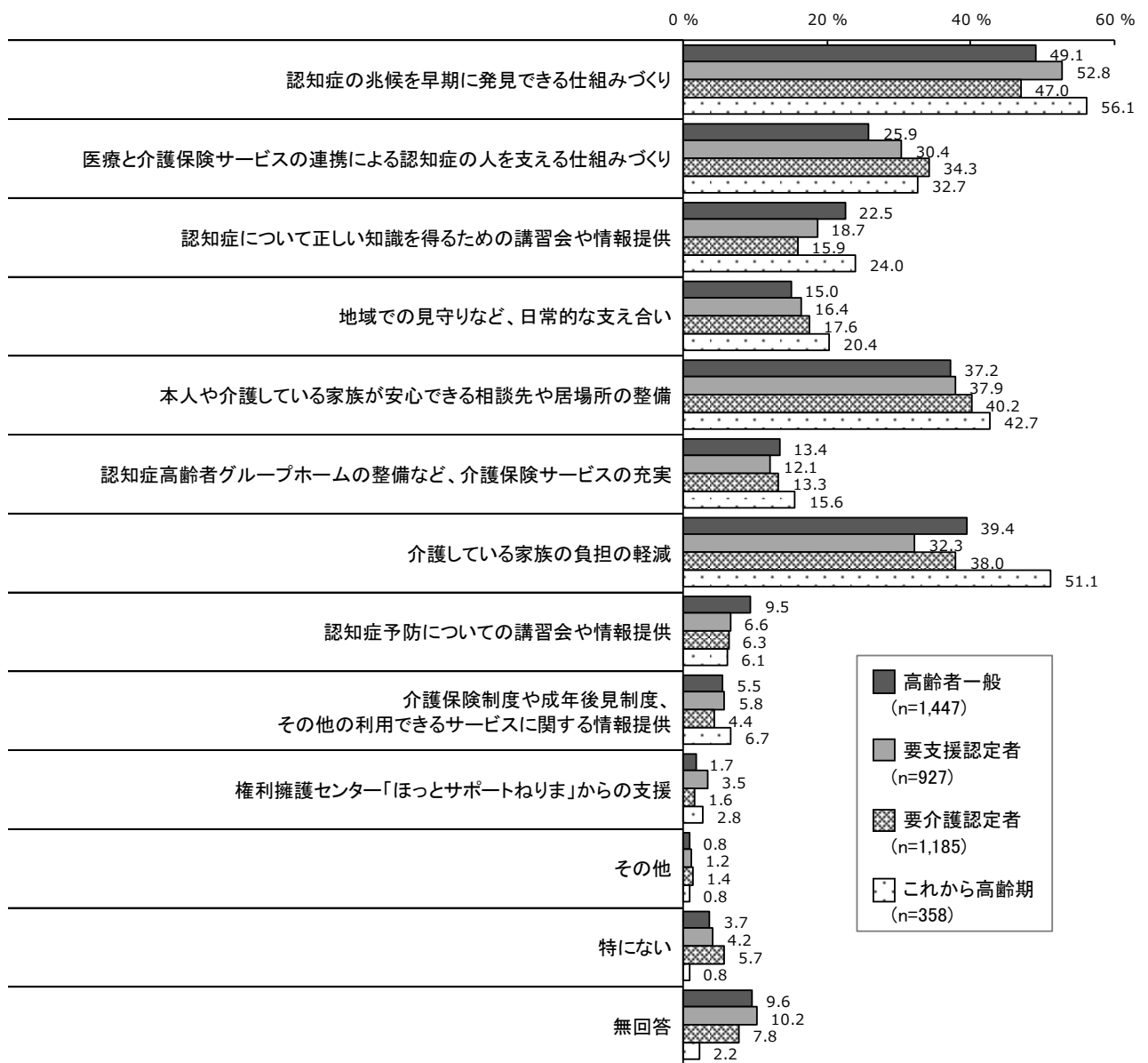
○いずれの調査においても、「家族・親族」、「かかりつけ医」が上位に挙がっている。



② 認知症施策で必要なこと

- 高齢者一般では、「認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり」が49.1%で最も高く、「介護している家族の負担の軽減」(39.4%)、「本人や介護している家族が安心できる相談先や居場所の整備」(37.2%)と続いている。
- 要支援認定者では、「認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり」が52.8%で最も高く、「本人や介護している家族が安心できる相談先や居場所の整備」(37.9%)、「介護している家族の負担の軽減」(32.3%)、「医療と介護保険サービスの連携による認知症の人を支える仕組みづくり」(30.4%)と続いている。
- 要介護認定者では、「認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり」が47.0%で最も高く、「本人や介護している家族が安心できる相談先や居場所の整備」(40.2%)、「介護している家族の負担の軽減」(38.0%)、「医療と介護保険サービスの連携による認知症の人を支える仕組みづくり」(34.3%)と続いている。
- これから高齢期では、「認知症の兆候を早期に発見できる仕組みづくり」が56.1%で最も高く、「介護している家族の負担の軽減」(51.1%)、「本人や介護している家族が安心できる相談先や居場所の整備」(42.7%)と続いている。

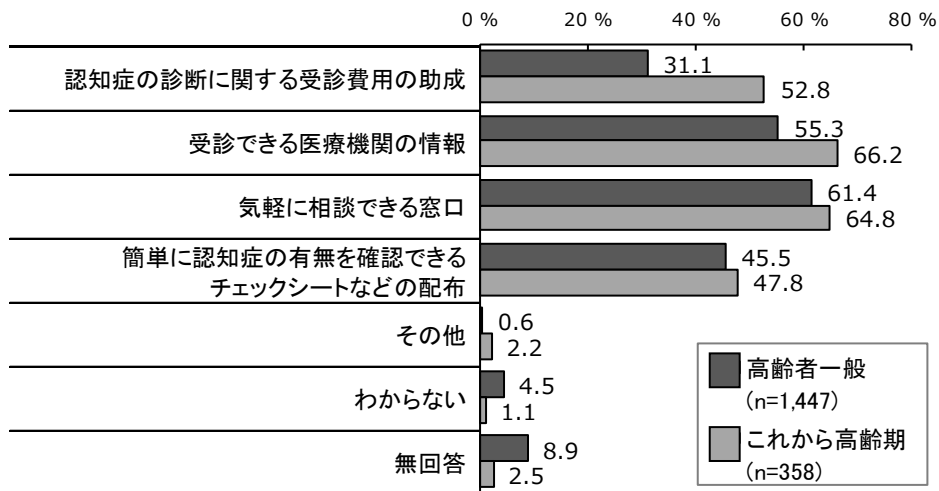
■認知症施策で必要なこと (〇は3つまで)



③ 認知症の早期発見の仕組み

- 高齢者一般では、「気軽に相談できる窓口」が61.4%で最も高く、「受診できる医療機関の情報」(55.3%)、「簡単に認知症の有無を確認できるチェックシートなどの配布」(45.5%)と続いている。
- これから高齢期では、「受診できる医療機関の情報」(66.2%)、「気軽に相談できる窓口」(64.8%)が上位に挙がっている。

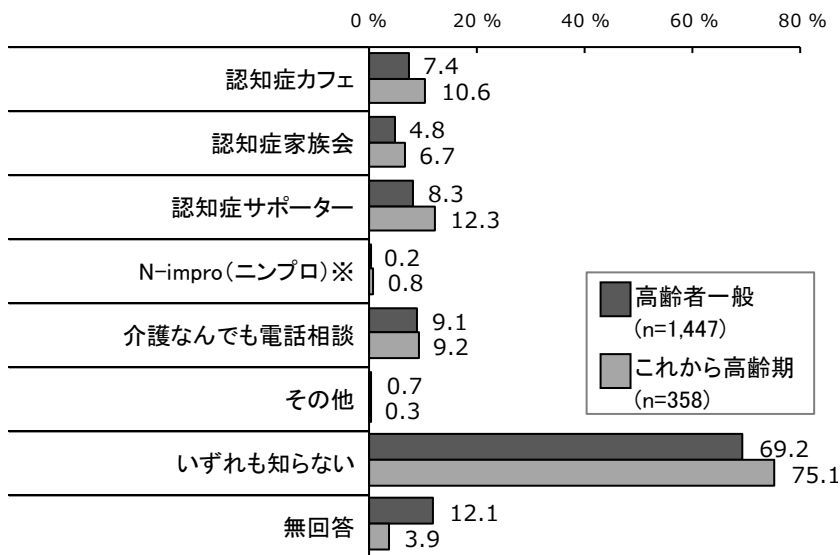
■認知症の早期発見の仕組み（複数回答）



④ 認知症の人や介護家族を支える取組の認知度

- いずれの調査においても、「いずれも知らない」が最も高いが、認知されている取り組みについては、高齢者一般では「介護なんでも電話相談」、これから高齢期では「認知症サポーター」が高くなっている。

■認知症の人や介護家族を支える取組の認知度（複数回答）



※ 「N-impro(ニンプロ)」は、認知症の方と接するときの対応について考えるカードゲーム形式の研修プログラムで、区の協働プロジェクトで開発されたもの